ロハイナイトプレイヤー・レター

2024年の ビジョン

神の戦いに生きる~祈りと賛美によって~

「あなたがたはこのおびただしい大軍のゆえに恐れてはならない。 気落ちしてはならない。 この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから」

(II 歴代 20:15) 新改訳第三版

2024 **2** ^{月号}

1. ハマスのテロ攻撃で親を失った子どもたちを覚えて

昨年10月のハマスのテロで、ガザ近くのキブツに暮らしていた3人の子どもたちは、目の前で、両親が殺されました。母親が殺されたあと、末娘で3歳のアビゲイルちゃんは、父親に駆け寄りました。父親は娘を守ろうと胸に抱えたまま射殺され、アビゲイルちゃんは、父の腕の中からはい出て、近所の家に行きました。しかしその家族もろとも拉致され、ガザで4歳になり、50日後に解放されました。9歳の兄と6歳の姉は、母親の遺体のすぐそばのクローゼットに14時間隠れて生き延びました。

このような壮絶な体験したのは、この子どもた ちだけではありません。テロで両親を殺された子 どもは16名。シングルマザーを殺された子どもは 2名。両親の片方が殺され、もう片方が拉致や行 方不明の子どもが3名。そして、片親を殺された 子どもは100名以上に上ります。イスラエル国立 児童評議会のウィンドマン氏はこう語ります。「イ スラエルは、戦いと、トラウマ、悲しみに刻まれ た歴史がありますが、ここまで大きな喪失に直面 したことはありません。このテロはホロコースト と比較されますが、その規模に見合う支援が必要 です。この子どもたちは、恐怖に耐えながら何時 間も狭い空間に隠れ、燃える家の中で安全な部屋 に避難し、目の前で親が血を流して死んでいくの を目撃した子どもたちです。戻るべき家も家族も コミュニティーも崩壊し、友だちの所にも戻れな い。子どもたちの抱える喪失、トラウマ、痛み、

不安に対して包括的に対処する支援策が必要です」 孤児となった子どもたちは、全員親戚の家に引き取られました。しかし、その親戚も愛する人を 失った悲しみの中にあり、子どもたち、受け入れ 家庭両方の支援が必要です。現在イスラエルでは この未曾有の事態に際し、ソーシャルワーカーが 少なくとも1500人不足しています。また持ち物 を全く持っていない子どもたちもいて、継続的な 経済支援も必要です。専門家は、高度に組織化さ れた支援体制の必要性を語ります。

テロと、今も続く戦争は、国の安全保障、政治、 社会構造、あらゆる分野に影響を与えています。 この途方もなく大きな痛みを体験した子どもたち が、イスラエル社会とともに、イスラエルの神の 愛の中で、生き抜いていくことができるようお祈 りください。



©IDF Spokesperson's Unit / CC BY-SA 3.0 ガザから解放後、叔父と対面した少女。母親はガザに拘束中。

その聖なる住まいにおられる神は みなしごの父、やもめの保護者である。(詩篇68:5)口語訳

- ●テロで、親を失った子どもたち、また受け入れ家庭に、神の深い癒やしと慰め、励ましが与えられ、 日々の生活が支えられるように。
- ②孤児を始め、テロで傷ついた方々へのあらゆる支援体制が物心両面で構築されていくように。
- ❸子どもたちが神の愛と平安に満たされて、希望を持って生きていくことができるように。

2. 能登半島地震の復興と支援活動を覚えて

能登半島を襲った最大震度7の大地震は、現地に深い傷跡を残しました。特に被害が甚大なのは、輪島市と珠洲市です。輪島市の漁港では地面が4mも隆起し、港全体が干上がってしまい、漁業に深刻な影響が出ています。石川県内の住宅被害

は3万棟を超えました。また、断水が1月29日の時点で、4万4千戸以上で続き、復旧には2カ月以上かかる見込みです。

この大災害を受け、教会やクリスチャン団体もいち早く支援活動を開始。1月5日には、石川県

内の諸教会と各災害支援団体が協力し、「能登地震キリスト災害支援会」(通称:能登ヘルプ)が発足しました。余震が続く中、避難所や教会、病院、高齢者施設や福祉施設などを回り、物資などの支援を行っています。また、寒さに凍える被災者の皆さんに、温かい食事を提供する炊き出しも行われました。必要な物資は刻々と変化するため、現地の方々と密接なコミュニケーションを取りながら、活動は続けられています。

復興はまだこれからです。すべてを失った被災 者の方々は、肉体的にも精神的にもつらい日々を 送っていらっしゃいます。お一人おひとりが、神 の愛に支えられながら生活を再建していけるよう 祈ってまいりましょう。



能登地震キリスト災害支援会(能登ヘルプ)Facebookより 能登地震キリスト災害支援会」(通称:能登へルプ)が発足。支援活動がスタート!

神は われらの避け所 また力。苦しむとき そこにある強き助け。(詩篇46:1)

- ●被災地の一日も早い復興とともに、被災者や支援者の心身が守られるように。
- ②能登ヘルプなどの働きを通じて、必要なところに必要な支援が届けられるように。
- ❸家族、仕事、家を失い、心に深い傷を負った人々の上に、主のあわれみ、癒やしがあるように。

3. 救急車支援を覚えて

国際人道法では、病院や医療搬送車への攻撃は禁じられています。ハマスは、これを狡猾に悪用し、ガザにおいて、医療施設を隠れ蓑にして、病院に軍事基地をつくり、救急車を使って、テロリストを搬送してきました。イスラエルの赤十字に



ハマスの奇襲攻撃で 救急車16台攻撃

あたる救急医療団体は、マゲン・ダヴィッド・アドム(通称MDA)と言いますが、10月7日のハマスによる奇襲攻撃では、救急車16台が攻撃され、スタッフやボランティアが3名死亡。続く戦争も含めると、1月29日現在で、MDAのスタッフ19名が死亡しています。BFPは、イスラエルの人々の命を守るため集中治療用の救急車を贈呈したいと願っています。皆様のお祈りとご支援をお願いいたします。先日MDA本部をBFPスタッフが訪問しました。その様子をご覧ください。

映像はこちら▶▶▶

https://www.youtube.com/watch?v=RjNYf4AnMKk



主は心の打ち砕かれた者を癒やし 彼らの傷を包まれる。(詩篇147:3)

- ●戦時下の緊張の中で、救命の働きをするMDAのスタッフに主の特別な助けと守りがあるように。
- ❷B.F.P. Japanからの救急車5台寄贈のビジョンが祝福され、必要が満たされるように。
- ⑤MDAとBFPの関係が祝福され、命を守る支援を通して、共に神に栄光を帰すことができるように。

「ハイナイトソング」

視聴・譜面のダウンロード



https://www.bfpj.org/music/

「ハイメール通信」

祈りの第一声として 祈祷課題をお届けします(不定期)



https://www.bfpj.org/pray/chaimail/form/



特定非営利活動法人 B.F.P.Japan(ブリッジス・フォー・ピース)

〒182-0001 東京都調布市緑ケ丘2-40-22 TEL:03-5969-9656 FAX:03-5969-9657 URL: www.bfpj.org ハイナイトに関するお問い合わせ: chainight@bfpj.org